

平成21年3月定例会会議録（第4号）

平成21年3月11日 水曜日 午前10時00分開議

佐々木 謙 二 議長 町 田 義 昭 副議長

出席議員（17名）

1番	竹 田 博 一	議員	2番	鈴 木 悟 司	議員
3番	我 妻 昇	議員	4番	大 道 寺 信	議員
5番	谷 口 栄 子	議員	6番	蒲 生 光 男	議員
7番	町 田 義 昭	議員	8番	安 部 隆	議員
9番	渋 谷 佐 輔	議員	10番	高 橋 孝 夫	議員
12番	藤 原 民 夫	議員	13番	鈴 木 良 雄	議員
14番	小 関 勝 助	議員	15番	鈴 木 武 次	議員
16番	鈴 木 新 助	議員	17番	蒲 生 吉 夫	議員
18番	佐々木 謙 二	議員			

欠席議員（1名）

11番 大 沼 久 議員

+

説明のため出席した者

内 谷 重 治	市 長	新 野 潔	副 市 長
飯 澤 常 雄	総務課長兼選挙管 理委員会事務局長	平 英 一	財 政 課 長
遠 藤 健 司	企 画 調 整 課 長	松 木 英 司	税 務 課 長
浅 野 敏 明	市 民 課 長	中 井 晃	健 康 課 長
船 山 祐 子	福 祉 事 務 所 長	高 橋 信 夫	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長
矢 久 保 浩	消 防 主 幹	飯 田 武 志	監 査 委 員
加 藤 弘 二	教 育 委 員 長	大 滝 昌 利	教 育 長
遠 藤 誠 一	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長	鈴 木 榮 一	農 業 委 員 会 会 長
遠 藤 正 明	農 林 課 長	齋 藤 理 喜 夫	商 工 観 光 課 長
鈴 木 一 則	建 設 課 長	平 進 介	管 理 課 長
那 須 宗 一	文 化 生 涯 学 習 課 長	鈴 木 要 一 郎	農 業 委 員 会 事 務 局 長
渡 部 政 明	水 道 事 業 所 長	佐 藤 孝 博	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長

+

青 木 邦 彦 監査委員事務局長

事務局職員出席者

松 本 弘	議会事務局長	小 関 浩 幸	補	佐
五十嵐 恵美子	庶務係長	塚 田 知 広	主	任

議事日程（第4号）

平成21年3月11日 水曜日 午前10時00分開議

日程第 1 市政一般に関する質問

1 番 竹 田 博 一 議員

3 番 我 妻 昇 議員

本日の会議に付した事件

議事日程（第4号）に同じ

+

+

+

開 議

○佐々木謙二議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、11番、大沼久議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○佐々木謙二議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

竹田博一議員の質問

○佐々木謙二議長 順位10番、議席番号1番、竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 私は、本定例会に当たり、通告している2点について質問させていただきます。

平成19年度は財政危機脱出元年、20年度は財政健全化に向けた正念場、そして21年度の施政方針では「財政健全化の基礎固めの年と位置づけ、歳入の確保と歳出の抑制を徹底する」との方針を示されました。しかしながらなかなか思うようにならないのが現実ですが、なせば成るの精神で遂行すれば必ず長井市の財政が

健全で明るいものになるものと確信するものであります。今、世界的に不況の波にのみ込まれ、企業の倒産、縮小等々、非常に厳しい状態で、いつ景気が回復するかも見通しが立たない状況下にあります。市民にとっても雇用の解雇、または製品の生産調整による給料の減などにより生活が非常に苦しい状態にある市民が数多くおられると思われまます。そして働き場を失った方は再就職のめどすら立っていない方も数多くおられるのではないかと推察しております。このときこそ議員も市民の目線に立って委員会を設けて議員報酬の削減を検討すべきと思っております。一刻も早く景気が回復することを望みながら以下の質問をさせていただきますので、よろしくご答弁のほどお願い申し上げます。

初めに、本市の農業について質問いたします。

先日、山形県から米の新品種が発表になり、吉村知事が「つや姫」と命名されました。聞くところによると「山形97号」が最も投票が多かったようですが、いろいろな理由で「つや姫」と決定されたようです。私自身としては「あきたこまち」のように山形の文字を入れ、「山形つや姫」だとよかったなというのが感想であります。また、吉村知事も「あったかい県政を実現する」と言っておられますので、農業の分野にも期待するものであります。1番目の生産調整、減反の見直しは農家のためになるのかについて市長並びに農林課長に質問いたします。

報道によれば、石破農水大臣は「米の生産調整についてすべての角度から抜本的に検討していかなければならない」との考えを示しました。米の減反政策については、ご存じのとおり、日本の食生活の洋風化等により昭和45年ごろから米の生産量が消費量を上回るようになりました。そのころ米の消費量は1人当たり1年間で120キログラムぐらいだったのですが、だんだん消費量が落ち、現在は半分の60キロぐらいになってしまいました。消費量が減る一方、栽培技術

+